実践事例

（郷土）矢作北小学校　５年

体験学習を重視し、地域の方から学ぶ稲作学習

５月～１月（５５時間）

１　ねらい

・学区の米作り名人に教えていただきながら、米作りの体験活動を通して、稲作の流れを学ぶことができる。

・米作りの工夫や苦労があることに気づき、自分たちにどんなことができるか考えることができる。

２　実践の概要

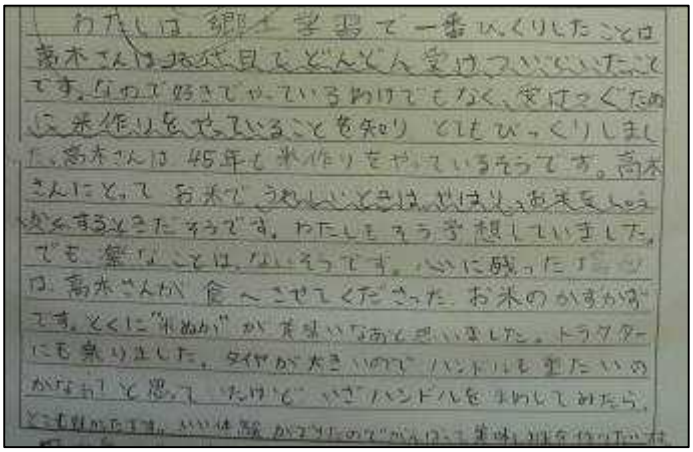
（１）長瀬学習…５月１日

１年間稲作活動でお世話になる学区の米作り名人のお宅へ伺い、稲作活動について勉強する日である。米作りのことをほとんど知らない児童が、今後の活動に興味を持って取り組んでいきたいと思えるように、体験も含めた学習を展開していただけるようあらかじめ打ち合わせておいた。

説明してくださる名人

稲作の流れや使用する機械などを見聞きさせていただいた。玄米や白米、米ぬかを試食させてもらったり、重たい米袋を持たせてもらったりした。さらに、耕運機の運転席に座らせてもらい、機械の大きさを体感する事ができた。

苗を育てるハウスの見学で、育苗箱に種もみがまかれ、温度調節をしながら暗いところで苗を育てることが分かった。また学習当日に合わせて数人の農家仲間が集まってくださり、種もみ作業の様子を見せていただくことができた。



長瀬学習後の学習日記

米作りを続けるためには、機械の維持や労働力の確保など莫大な経費がかかることを聞いた。また、米を食べてほしいという願いも訴えられた。米を作ることと消費されることが、農家の仕事を続けられる最大の流れなのだと私自身が再確認できた。

（２）田植え…６月６日

米作り名人をはじめ、総代さんなど数人のご指導のもとで、田植えを体験させていただいた。

田植えの様子

苗３～４本を土の中にまっすぐ植えるという教えを聞き、児童はひもの列に合わせて順に植えていった。土に足をとられて転ぶ子や泥の感触に戸惑う子も多かったが、しばらくすると慣れて、植える手つきもさまになってきた。名人に手を添えられて植える子やせっかく植えた苗を直される子もいたが、それだけ丁寧に植えなければ、苗が根付き米が収穫できないということを児童も理解することができたようだ。

（３）稲刈り…１０月１６日

田植え同様、米作り名人をはじめ、総代さんにもご指導いただいた。

児童は２人１組で行った。一人がかまで稲の根元を刈り、それを７～８束ほど集めると、もう一人が縄でしばるという活動である。児童がかまの使い方に慣れるまで、学区の方が一人一人教えてくだ

さった。縄で縛るのは児童では力が入らず、何度もやり直しをして、ようやくはざへかけることができた。稲刈りは思った以上に力のいる仕事だということを実感したようだった。

稲刈りの様子

（４）脱穀…１０月２５日

米作り名人の脱穀機をお借りして、学校で脱穀を行った。児童ははざにかけてある稲束を一束ずつ持ち、脱穀機まで運ぶ活動を体験した。脱穀機の中に束を入れると、うしろから籾のとれた束が出てきた。機械の中で刃が回転し、籾がとれていく仕組みを見せていただくことができた。機械から籾がこぼれている様子を見つけた児童は、「落とすともったいない、一人分ぐらい集められる。」などと言いながら一粒ずつ拾い集めた。その姿を見た十数名の児童も落ちた米粒を拾い始めた。自分たちの田んぼでとれた米を一粒も無駄にしたくないと思う児童の思いが、このような行動に表れたと思う。

わらを田にまく様子

わらは野菜作りで利用するため、保管した。機械から出たわらくずは肥料として田んぼへまいた。「米作りに捨てるものはないんだね。」と気づく児童も現れた。できた米ばかりに目を向けがちだが、残ったものも別のところで利用していることに、児童から気づいてくれたことがうれしかった。

（５）米感謝の会・もちつき大会…１１月１０日

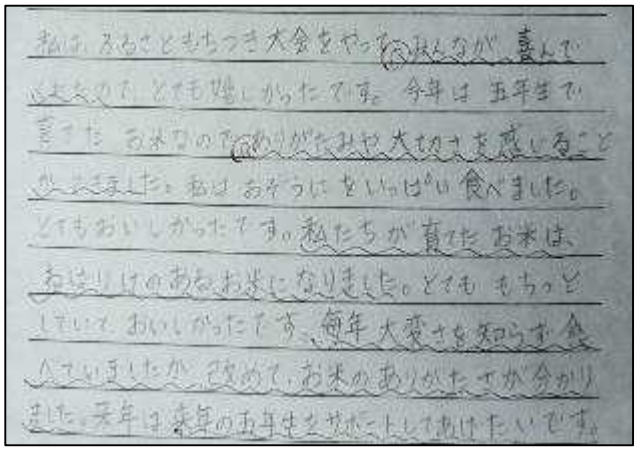
１２８㎏のもち米が収穫できた。米感謝の会では、米作り名人や総代さんをはじめ、お世話になった方をご招待し、お礼を伝えることにした。お礼の内容は手紙と花のプレゼントである。細かい企画は代表児童と相談して決めた。当日は１５名の方へ直接お礼を言い、プレゼントを渡した。

米感謝の会

もちつき大会

その後、もちつき大会を開いた。もちつき大会は学校行事である。ＰＴＡ学級委員やもちつき保護者ボランティアの方にご協力いただき、９つのうすで合計１６２㎏のもち米をついた。米感謝の会でご招待した方々や全校児童は、保護者がついてくれたもちをいろいろな味で食べてくださった。

５年生の児童には、「自分たちの収穫した米を食べてもらうこと以外に何かできることはないか」と考えさせた。そこで、もちつき大会の準備や片づけの一部を手伝わせていただくことに決まった。また、もちをつく活動にも参加させていただいた。重たいきねを持ってふらふらする児童もいたが、保護者の方に助けてもらいながら、もちをつく体験をさせていただくことができた。



私は、みなさともちつき大会をやって、みんなが喜んで
くれたので、とても嬉しかったです。今年は五年生で
植えた お米なので、めっちゃたいへん大切さを感じること
ができました。私は おそうにをいっぱい食べました。
とてもおいしかったです。私たちが育てた お米は、
おばりけのあるお米になりました。とても もちっと
していて おいしかったです。毎年 大変さを知らず食
べていましたが、改めて、お米のありがたさが分かり
ました。来年は来年の五年生をサポートしてあげたいです。

感謝の会・もちつき大会後の学習日記

３　実践を振り返って

稲作体験は児童にとって決して楽ではなかった。体験活動を振り返らせると、時間や手間がかかる、重労働で疲れるなどの素直な感想も出た。だから、農作機械の導入が不可欠であること、協力態勢で取り組むことで作業効率が上がるというよさにも気づくことができた。さらに、残さず食べる、感謝して食べるなど、食べることについての意識も変わってきた。作り手の思いや苦労を体感でき、食べ物をそまつにしない気持ちを持つことができるようになってきたことをうれしく思う。